



若い先生に活躍の機会を与え 時代の変化に対応する 新しい教育活動に力点を置く

学園内設置大学や地域と協働による 中高大接続の探究学習を計画

本校は「ユニバーサル社会を創造する人間の自覚と能力を育み、社会に貢献できる人間を育成する」を教育理念とし、探求心あふれ、自ら学ぶことができる生徒の育成を目指しています。

先行きが不透明な時代のなかでも、グローバル化はますます進み、日本にいても海外から流入してくる優秀な人材と共に働くことが当たり前になっていくことは容易に想像できます。生徒たちに求められている学力観も自ずと変わっています。日常会話で英語が使えることはもちろん、自主的・主体的なものごとに取り組める力をもっているかが問われてくるでしょう。

進路指導部長の時代から、英語教育と探究学習に力を入れてきました。留学サポートはもちろん、オールイングリッシュでSDGsについて考えるプログラムなどを実施しています。

探究学習については、中学校では15年前から総合的な学習の時間で「コミュニケーション」という科目を設け、1年生にNIE (Newspaper in Education)を取り入れ、

グループで新聞を作っています。2年生で多様な大人の生き方に触れ、3年生はフィールドワークも含めて個人の研究に取り組む卒業研究を実施しています。高校の総合的な探究の時間では、外部の良質なコンテンツを取り入れながらクラスの壁を取り払って、他クラスの生徒と共に切磋琢磨する時間を設けています。

また、同一法人内に3つの大学がある強みを活かし、授業見学や、教授陣を招聘して大学の模擬授業を実施してもらうなど、高校の中だけでは体験できない学びを提供しています。来年度からは、摂南大学に新設する現代社会学部と枚方市と協働で、地域創生に取り組む予定です。こうした取組を軸に、中高大の10年間の接続教育を強化していきたいと考えています。

ボトムアップで意見を吸い上げ 若い先生たちの力を引き出す

校長職に就いてまだ2年目ですが、心掛けていることは、伝統を守りながらも、新しい教育に力を注ぐことです。そのためには若い先生方の力を引き出し、ボトムアップによって生まれた教育活動を大切にしてい

たいです。生徒と同様に教員も「これをやってみてみたい」と主体的に思ったときに成長するとき。授業にネイティブとのオンライン英会話を導入することや、探究の取組も若い先生たちからの発案です。結果としてうまくいかないことがあっても、チャレンジすることが大事です。やりたいように任せて、困っていたらサポートするようにしています。

また、先生たちだけでなく、生徒や保護者が何に悩み、何を思っているかを気軽に語れる校長でありたいです。朝は校門に立って生徒たちを迎え、朝礼が終わるまでは職員室にいます。すべての学校関係者の思いを肌で感じられる距離感を保ちながら、解決していくことが私なりのリーダーの役割だと考えています。

やまだ・ながまさ / 1964年生まれ。関西大学文学部英文学科卒。人と接することや教えることが好きで、小学生のときに見たテレビの学園ドラマに影響を受け、一貫して教員を志す。1990年に母校である啓光学園中学校・高校に英語教員として初任。2008年に法人連携により校名が常翔啓光学園中学校・高校に変更するとともに、男子校から男女共学になった初年度に学年主任となる。女子生徒の受け入れ準備に当初は戸惑いながらも、多くの経験を積み、生徒たちとの信頼関係を築く。2011年進路指導部長、2016年教頭を歴任し、2021年より現職。